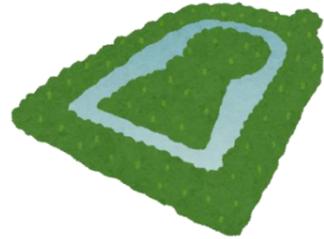


【葉室塚古墳】

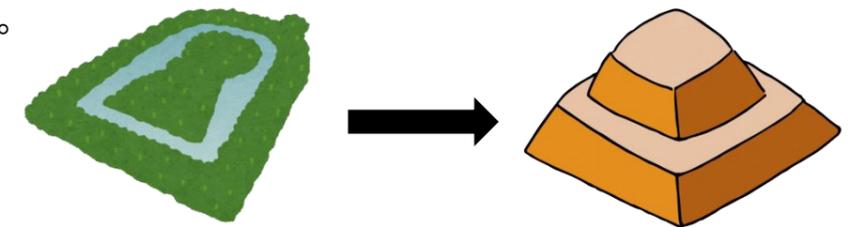
古墳は3世紀から7世紀までに作られたお墓のことで、いろいろな形がり、時代とともに変化します。

前方後円墳という形の古墳が王の墓として3世紀に造られはじめ各地に広がります。王の象徴として次第に巨大なものが作られるようになったと考えられています。



前方後円墳は6世紀末には四角形に変化していきます。

これは、当時日本に入ってきた大陸文化や仏教文化、そして寺院建築などの影響とも考えられています。



太子町には聖徳太子が活躍した6世紀末から7世紀頃の古墳が多く、古墳の移り変わりを知る上で、この地域は大変興味深い場所です。葉室塚古墳のような長方形のものは珍しく、通常は1つしかない石室が2つあることから横長に造られたものなのです。ちなみに、近くにある推古天皇陵も長さ63メートルの長方形で、東西に2つの石室があると考えられています。

ぶらぶらルートの虎の巻「キーワードは2」
はこのことだったんだね。



「日本書紀」には推古天皇は先に亡くなった息子の竹田皇子の墓に葬られたと記されており、「古事記」には大和にあるこの墓を河内の磯長に改葬すると記されています。

近つ飛鳥博物館には古墳に関する資料がたくさんあります。ぜひ見学してくださいね。

